
赤い靴

あゆみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤い靴

【Nコード】

N8603R

【作者名】

あゆみ

【あらすじ】

童話『赤い靴』について。

「赤い靴はたちまち踊り出しました」

ぺらり、と本のページをめくる音。

母さまはいつも、私の為に本を読んでくれる。今日はよく晴れて
いるからと、お外で読書。ピクニックがてらに、公園で。

とても可愛い赤い靴。

最近、父さまに買って貰ったばかりだ。だからだろうか、今日の
話は『赤い靴』。

母さまのお話を、私はは赤い靴を履いて聞いていた。

『赤い靴』

最後には木こりのおじさんに足を切り落としてもらう。童話なの
に夢が無いと思う。でもキラいな話じゃない。

小人たちを言いくるめて死体を持ち帰ろうとするような変体王子
も実質百十六歳の大年増に口付けするような王子も居ないから。夢
のある話には本当は夢が無い。最終的に何かを失ってしまうような
話のほづがいつそ清々しいとすら感じる。

踊れや踊れ、赤い靴。

教会の門番がその言葉を唱えるごとに、赤い靴はますます激しく
踊り出す。

お嬢さん、赤い靴を履いて教会に来てはいけないよ。

おばあさんの目を盗んで買った、赤い靴。おばあさんは目が悪く
て気がつかない。でも赤か黒かの見分けくらい付きそうなものなの
に。

赤い靴は茨の道を進みます。腕も足も傷だらけです。

ごめんなさい、ごめんなさい門番さん。どうかこの靴を止めてください。

いい加減止めて上げりゃあ良いのに。たかだか二回の反抗で大人気無い。

あら？向こうで誰かのお葬式をしているわ。：まあ、あれは私のおばあさんのお葬式！！

ただ二回、赤い靴を履いて教会に行っただけで親の死に目に会えなくするなんて。あの門番はきつと悪魔だったにちがいない。教会の門番ならば、イエス・キリストに仕えているのではないのか。

お前の主は人を許せと、罪を許せと説いたのではなかったか。それとも十字架に掛けられた時に気でも変わったのだろうか。もしキリストが罪人は死ぬまで追い詰めると一言でも言ったのならこの門番の行動も頷ける。

だけどそんな事は無い。

「そして少女は孤児院の子供達に正しい行いをする事を説きながら幸せに暮らしました。おしまい」

可愛らしい金髪の少女の挿絵に、私は少し首をかしげた。本当に、幸せなのだろうか。

私には子供達に苦勞話を聞かせながら暮らしましたと聞こえるのだけ。

この話はキライじゃない。だけど、スキにもなれない。

まあ童話なんてそんなもんだ。

その本質は『夢なんて無いんだよ』ってこと。

物語は『不思議の国のアリス』くらいちんぷんかんぷんな話のほろが気持ち良い。おかしな言葉遊びに笑っても、おかしなキャラク

ターに笑っても、深読みせず楽しめる。しかも、アリスは本当に夢落ちだ。

母さまに少し微笑んで、私はくうつと身体を伸ばした。
はあ。じっとしているのにも疲れた。

体を動かしたい。

少し踊ってみようか。

せっかく、赤い靴を履いていることだし。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8603r/>

赤い靴

2011年3月23日14時56分発行